

意欲的に記録更新を目指す都立高校の部活動を紹介

文武両道を実践 陸上女子短距離・鷲麻耶子選手

100m自己ベストは11秒82 東京アスリート認定選手として記録更新・人間的成長目指す

都立八王子東高校

八王子東高校（八王子市）は「自ら学ぶ 自ら考える 自ら創（つく）る」を理念に掲げる進学校。その中でも、文武両道を買っている生徒が3年生の鷲麻耶子（さぎ・まよこ）だ。

陸上競技の女子短距離選手。1年67、しなやかな筋肉の持ち主で100mの自己ベストは11秒82。「本格的に陸上を始めたのは中学2年です」と振り返るが、翌年の3年時に全日本中学校陸上選手権に出場するなど、すぐに才能は開花。八王子東に進学した後も国体、高校総体、U-18日本選手権、東京陸上選手権出場など全国区の活躍を見せている。また、東京アスリート認定選手としても選出されている「都立の星」なのだ。

「学校には尊敬できる先生、友だちがいます。勉強は大変ですが、八王子東高校に入ってよかったです」と充実した毎日を送っている。

そして今年8月には「セイコーゴールデングラブ



①八王子東に進学後も全国区の活躍を見せる ②「勉強は大変だが、八王子東高校に入ってよかった」と笑顔で語る鷲



り陸上2020東京」に出場し、憧れの国立競技場のトラックを走った。「今までで一番大きな舞台でした」と刺激を受けた。

憧れの存在は男子短距離の山縣亮太（セイコー）。「まだしっかりお会いできていませんが、謙虚で、よく考えて行動されていると思います。トレーナー

さん、マネージャーさんと少人数でメニューを組んでいるところも参考にしています」と語る。

今後も記録更新、そして人間的成長を目指し、鷲は走り続ける。

陸上競技部女子2選手 高校で才能開花・記録伸長

女子ハンマー投げ・下村は今秋全国大会で堂々3位、女子100m・山越は昨秋国体予選で都立生初の11秒台達成

都立富士高校

10年に中高一貫教育校となった都立富士高校（中野区）は今年度で100周年を迎える進学校で、都教育委員会の「理数アカデミー校」に指定されている。「自主自律」「文武両道」を掲げ、陸上競技部、剣道部、なぎなた部は「スポーツ特別強化校」でもある。

陸上競技部は10月に広島で行われた全国高校陸上競技大会に2選手が出場。女子ハンマー投げの下村倫子（3年）は51m07で3位に輝いた。8月の全国高校リモート選手権（都指定大会）では49m89を記録し1位となり、都の高校記録を樹立。同月の松戸投てき競技会でも51m30と記録を伸ばし、年間の全国ランキング7位で切符を手に入れた。

都記録について「出したいと思っていました。コロナで練習ができない中、先生方に練習時間をしっかり作っていただけました」と喜ぶ。中学時



部について下村(左)は「一人一人が目標を定め頑張っているところがいいところ」と言い、山越(右)は「アットホームで先輩一人一人と話ができる」と笑顔を見せる

代は全国と無縁。高校でハンマー投げを始め、外部指導員や都の高校記録保持者が先輩に恵まれた環境で才能が開花。部について「一人一人が目標を定め頑張っているところがいいところ」と学習面でも刺激を受けている。昨夏高校総体以来の全国舞台に「満足いく結果で終わりたい」と話していた。

女子100mの山越理子（2年）は昨秋の国体予選100mで都立生初の11秒台、11秒94を記録。全国ランク17位で出場を決めた。中学から全国を経験、昨秋国体は高1、中3の少年Bで7位入賞。今年9月の都高校新人戦では100m、200m、4×100mリレーを制し3冠を達成。部が女子総合2位となる原動力になった。

高校で記録が伸びた要因には「筋トレをするようになりました」とし、部については「アットホームで先輩一人一人と話ができる。勉強との両立は大変だけど充実しています」と笑顔を見せる。今後は「全国で入賞を目指したい」と力を込めた。

ダンス部躍動 初のブロック準V&夏の公式全国大会出場

コロナ禍乗り越え練習…男子生徒2人含む33人こだわりバスケットのユニホーム姿で迫力パフォーマンス披露

都立第三商業高校

江東区の都立第三商業高校は創立93年の歴史と伝統を誇る商業高校。マーケティングや経済、簿記、会計、情報処理など専門科目の学びや各種資格の習得を通じ、自己実現と社会で活躍する人材の育成に取り組んでいる。「生徒一人一人が光り輝く学校『SUN商』」がコンセプトだ。

部活動でも輝いた。ダンス部は8月19日に行われた日本高校ダンス部選手権夏の公式全国大会（パシフィコ横浜）に5年ぶり2度目の出場を果たした。ビデオ審査となった関東・甲信越予選大会では創部以来初となるブロック準優勝を成し遂げての晴れ舞台だった。

全国35校が集うビッグクラスに男子生徒2人を含む2、3年生33人が出場。こだわりのバスケットのユニホーム姿で迫力あるダンスを披露した。当時の部長・野上ひな（3年）は「2年生は緊張していましたが、自分たちらしくできました。すごく楽しかった。個性を大事にしました」、副部長の田村璃桜（3年）

は「強い女をイメージしました。目標がかない、やり切った感がありました」と振り返った。

コロナ禍を乗り越えて一つになった。3月から休

校、6月に再開したが、クラブ活動再開は7月から。

例年全国大会予選には2年生が出場も、3年生最後の舞台・文化祭が中止となり、3年生も大会参加を志願した。活動時間も制限される中週4日、就職・進路活動と両立しながら練習し、意見をぶつけ合い絆を深め、わずか1カ月で本番に挑んだ。野上は「お互いを刺激し合える仲間でした」とし、田村は「次は全国で入賞を」と後輩に新たな夢を託した。

現在は1、2年生42人が活動。顧問の本田貴臣教諭は「皆元気でパワーがあります。これからも学校生活としっかり両立しながらやってもらいたいです」と話した。



日本高校ダンス部選手権でこだわりのバスケットのユニホームを着てポーズをとるダンス部員たち

コンセプトは「生徒一人一人が光り輝く学校『SUN商』」